

熊本県合唱連盟の松本強一理事長からお手紙をいただきました。

昨年の震災被害による多くの困難な状況の中で合唱活動を遂行された熊本・大分県連のみなさまに敬意を表します。多くのお手伝いはできませんでしたが、同じ九州の合唱仲間として今後も寄り添っていきたい気持ちです。以下、松本理事長の許可を得て、お手紙全文を掲載いたします。

長崎県合唱連盟理事長 伊藤信二

長崎県合唱連盟 様

御礼

立春も過ぎ、春の光が明るさを増している様に感じるこの頃となりました。

まずは熊本地震に対する多くの方々の励ましやご支援に厚く御礼申し上げます。

今回の熊本地震の際に寄せられた励ましの言葉やご支援は私達の合唱活動に勇気と希望を与えてくれました。そして東日本大震災でも頻繁に使われた「絆」という言葉を身をもって実感することにもなりました。

昨年四月十四日夜に起こった熊本地震は県連の行事に多大な影響を与えました。新学期が始まったばかりで連盟の総会を間近に控えた時に起こった大地震だったので対応には苦慮しました。熊本県内の各施設はほとんど使える状況に無く、再開の見通しも立たないため、最初の行事である講習会は予定を変更して比較的被害の少なかった荒尾市で開催。ほとんどの学校や合唱団は地震から約一か月後に活動を再開したため、参加者は少なかったのですが、久しぶりに聴く歌声には感動を覚えました。「普通にみんなで歌うことの出来る素晴らしさ」を痛感した瞬間でもありました。

六月末に熊本県立劇場で開催予定だった「おかあさんコーラス九州大会」は急遽宮崎県連に引き受けて頂き西都市で開催されましたが、わずかな期間で準備され、スタッフの方々も献身的に働かれて、ここでも合唱仲間の絆を強く感じる事となりました。コンクールは時期をずらすことは出来ないので方々探した結果、お隣の福岡県大牟田市で開催。何とか乗り越えることが出来ました。コンクールの二日目はちょうどスウェーデンから来福していた合唱団が、被災された合唱団の皆様に私達の歌声を、とミニコンサートを行ってくれ、終了後のロビーでは自然に歌声の交流も始まりました。合唱で繋がる心の輪に国境は無く、感動を覚える一日になりました。

八月二十五日に熊本県立劇場は再開され、コンサートホール最初の催し物は県芸術文化祭オープニングコンサートでした。合唱連盟加盟団体からも沢山の方々が参加され、五月末に最初の練習を行いました。曲は佐藤眞作曲「土の歌」全曲。終曲は大地讃頌。練習の最後にその大地讃頌を歌いました。多くの方々が目に涙を浮かべて歌っていました。「母なる大地、大地に感謝せよ・・・」私達はこの熊本の大地に生かされています。時に牙を剥くこともあります。この山紫水明の熊本の大地はかけがえのない私達の故郷です。

私達熊本県合唱連盟の会員や、合唱を愛する県民共々、これからも「普通にみんなで歌うことの出来る喜び」をかみしめながら前進して行きたいと思えます。改めまして、多くのご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

熊本県合唱連盟理事長 松本強一